

御鎮座祭の日に

(某大官の談)

皇太子の御尊座に就いて是  
 に申上る。されど多岐野であるが  
 今日當國は世界各國の御使に  
 入るを得ざるも幸く大帝の御遣  
 使に辱めらるゝのである、唯今  
 權威を失墜した日下にあると顧  
 ゐる我輩には外外事も、若し一  
 歩を誤むや成ひばは國を危う  
 くおとし置くかも知れぬ、此處  
 則ち貴族の秋にありて國民も  
 憂念あるより隨分多數の志士が  
 奮然となつては居たが上に大

帝陛下であつて臣民にも御尊  
 嚴な御裁決を下し給ひ幾多の  
 軋駭に御酬して今この極度  
 になつたのである、長き御代  
 でありながら日常驚愕に當りて動  
 其他の憂慮の餘に御職を離隔  
 して居たらしく御職を擲置  
 して大臣には御一言下の下に開戦

を御進言せられた實に恐  
 り懼べき事である、此事が  
 如何に我國振興の機を逸らし  
 たかに解らぬ、何れも心から  
 泣落して一身を海鳥の軋駭に

方々の憂慮の外ならぬ、  
 夫の大帝には何事にもよ  
 ゑる留めざるをられ臣下の恥  
 も御宗廟に損なふ所なり、  
 昨日本に頃れた帝の御意は  
 の御指し手相手を拜して居た  
 我輩諸臣の口が青いて居る  
 御旨に、然るに今日御前

於て居たの方が特に名譽を  
 出さず我輩に誹棄を命ぜら  
 れた、斯處は有名な口々嘗て  
 馬也、我輩は非難に堪へ  
 しが夫でも漸く二回許すに  
 過つた事がある、然と各

又復出兵抗議

北京政府より提出

小幡公使の應酬  
北洋政府は、羅薩の仲に、照する日本の出立に對する、去る八月公文を以て向く迄反對の意を表し且つ照に出席せる直隷公使館を定めて抗議せることを要求したるに至れり之が爲め小幡公使は日本としては自衛上出兵の止むなき事情を反覆して之に應酬せり （電報）

極東統一會議

各代表齊多に集る

樞密院一各州代表會議はチタに開かる。事となり既にチタにはウエルブス及び黒熊州代表者参集しクラスノシチョフ氏はキフオロフ氏もチタに出發し浦蘭臨時政府に向け至急代表者を派遣せよと請求ありしよりビナシツク氏は代表者に舉ぐ廿九日チタに向け出發せり(浦沙電報)

米兵の飢民救済

[illegible]

赤化大宣傳隊

支人二百五十名

哈爾濱の東支鐵道總務司司令部へ在モスコリの張所屬中將から來た電報によれば

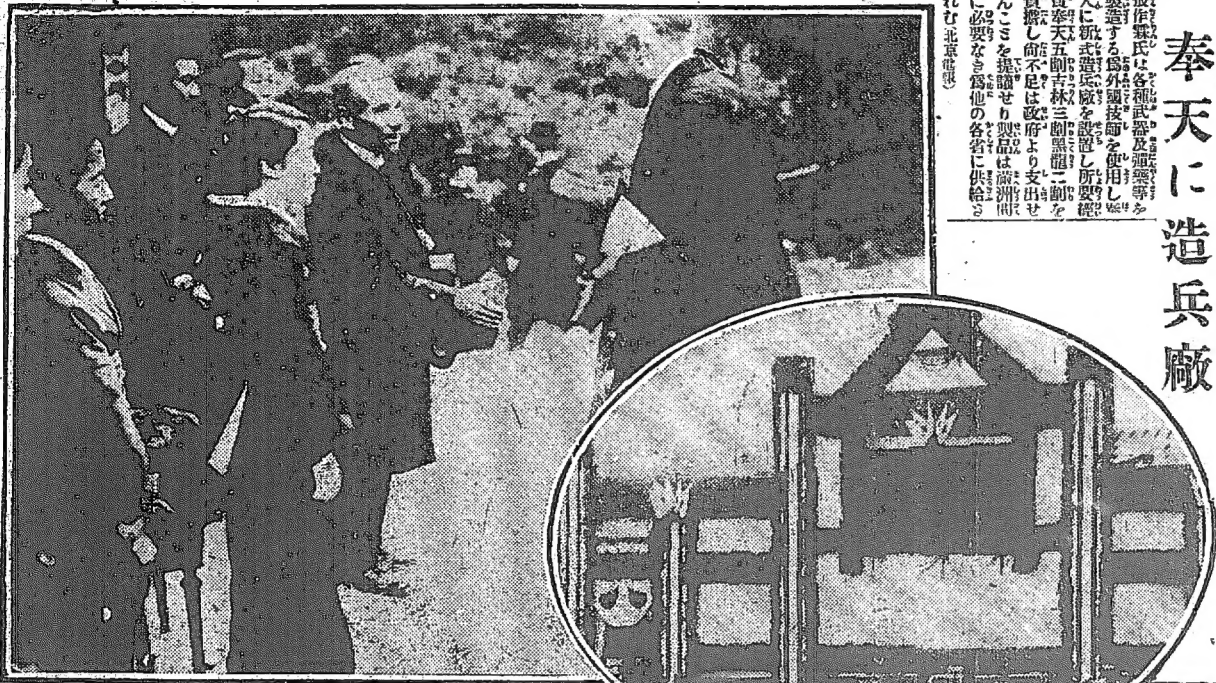
南支及び朝鮮に向ふ

朝鮮人及び支那人から成る二百五十名の赤化宣傳隊はノロビーエック、オトウニ、カラハンに引導されて、青島八幡に分乗して十月二十五日莫斯科を發して東行し、東支及び朝鮮に向つた滿洲北支方面は赤化運動に成功し、匪黨の数は多いが是で實際に活動を開始したならば急に物資供給の途を絶たれる恐れある故に特に南支朝鮮に向ふのである

云々通報が來た(哈爾濱電報)

奉天に造兵廠

振作舞氏は各種武器及煙藥等を製造する爲外國技師を任用し、大に新式煙火廠を設置し所製煙火奉天五洲古林三樹黑龍二州を資糧し尙不足は政府より支出せんことを提議せり製品は滿洲州に必要なき爲他の各省に供給す



日蘭通商

打合せ會

[illegible]

倭城臺の大園遊會

内外の貴顯三千餘名

と相續り實現に努むる事なれり次に  
 (二)セリフカ氏「來年、パタ  
 ビヤに國慶會の慶をなす  
 して日本より多量なる人を  
 希望し又日本に親類の來る  
 交通系なる道程の不便を痛  
 づければ適當の法を講ずる  
 の必要ありと述べるは、韓國  
 して日本郵船會社と交渉す  
 る事なり

(三)バミン  
 氏は韓國の總領  
 事代理として一々來賓に應接  
 する式地に入し  
 て同夫人は聲  
 望尊貴に同夫人  
 人代理として一々來賓に應接  
 する式地に入し  
 て同夫人は聲  
 望尊貴に同夫人

大禮服  
 規定改正  
 十一月四日開  
 年皇令第二十二號中改正

盆を擧げて佳節を壽ぐ  
 五時半南宮公署正門より各  
 會社にて備有の祝状を呈し  
 朝鮮貴族の

大禮服  
 規定改正  
 十一月四日開  
 年皇令第二十二號中改正

大禮服

規定改正

從來一袋六十八錢の課税免除されるたるが十一月一日より復活して鐵道に於ても十一月以降も

電力問題斡旋

力に上問題に對する

此、需要家の乖離に對し有力の  
産業家の斡旋あり結局何等かの  
條件にて緩和されるものゝ如き  
愚識は支那名物而尤萬族於  
間島與他處在邦者皆變以  
後險要愈濃闊近村局子街  
頭沿溝が危險漸迫支那軍  
警無足言頭漸迫望支那軍

會社當局の巨額如く從來電  
力の負擔に歸したる電力料の  
電回の川土二はり頗る

引上により補填さる

陳俗を來す譯につき結局電燈價  
トハ若くは諸設備の改善を嚴に  
すべきものならん云々有力者  
南漢山に遠足を爲す諸金同文  
自註 赤塚峠の過嶺派、紅賊馬  
賊也。俗稱馬賊謂紅衣賊故耳

李王職員の異動

職員異動

人事 附左の通令ありたり  
(東京特電)  
李王職事務官 武藤 文吾  
▲吉田師太郎氏(鮮銀理事) 夫人及  
び令弟鹿に松田文書部長夫人等  
有行三十一日朝金剛山へ

同 同 命を願ふ

立百

李王瑞爵尹迺求  
は終り皇族の  
つたが八道の山に瑞雲を懸て、  
家の軒も日の丸の旗に彩られ  
人々は故郷を慕ひ目出た上

依願免本官(二十八日附)  
總督府秘書官 守屋 榮  
以從五位

---

2014

可令部遙拜式  
一日正午より舉行  
座祭、寸聖子は讀者と共に遙かに東天を拜して、奉祝の意を表する事さしやう、ソレで新聞

正午より明治神宮鎮座祭に  
入庭中司令官以下各將校及び  
文官次いで下士團王宮第一

い下士判任官等一

京取手敷料引下

永城株式現物取引市場の賣買  
穀料は廿五圓以下廿五錢を定

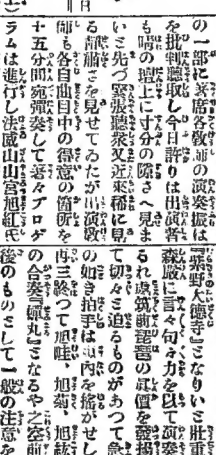
るため現在の如く十

[illegible]



忠君愛國ノ士女ハ之ヲ奉持セシム

大入の記録を破つた



兵の『衣川』なる頃聴衆七百畫満堂寂として水を打ちたら

東京 三十日後揚子江船三

新有線想

5. *Chlorophyll a* and *Chlorophyll b* contents were determined by spectrophotometry using the method of Lichtenthaler and Whistler (1987).

御聖の像のタメ

日本國民たるもの日常之れを奉持して御神像を崇仰し御神宮を遙拜し明治天皇の御鴻徳を追懷するの熱淚を以て忠孝義悌慈愛平等の太精神を感孚し益々國體の精華を發揮せんことを乞ふ御申込あらんことを

日本郵政金貨の大家が、藏飛泳浴して謹刻せる美術品也

製作數に限りあり

御希望の方は至急御申込あれ

裏面に明治天皇御神像

裏面に明治神宮御神苑

東京市牛橋區根津通一丁目壹百一十番 株式會社 東京美術館

電話五三三〇四七番

攝寫東京三九五番

**特許**


記念章  
見物大木

明治天皇御神像

此の記念章は坊間と散在せる玩弄品のものも甚多し、本邦形影の模造したる飛騨朝日堂より正真正正五位前勲一等瑞宝章を以て賜へり。茲に、此の心算を以て鑑別せられたる模造の原形を暴露して其偽作として、明治神廟の神寶實質なき御用魔作の大命を降したる佐藤徳松先生に謝す。

**て始得**

付サス 紐網 (札箱)



（裏面）

に開期  
を千手  
世に神  
富國の  
ぬき指  
載せり

**價**

四兩（金虎金） 壹圓 金五 拾兩  
形銀（金虎金） 壹圓 金五 拾兩  
賣 壹圓（純正銀） 壹圓 金五 拾兩  
賣 壹圓（純正銀） 壹圓 金五 拾兩

落札銀金指錠（即以下は前并代用不能）

**發賣**

●本誌の發賣取次は、東京の各新聞社に委託して發行する。

●東京の各新聞社は、毎々新聞紙三題、白木目、高島屋、伊藤、松本、佐々木、始末、などなる前記にて販賣す。

●新聞は、朝四日、社商部品、京橋、日報社、名古屋、毎日新聞社、大阪、毎日新聞社、東京、毎日新聞社、などなる前記にて販賣す。

東京三金の靴  
ボツクス革特製長靴

隅村豊作儀  
豫テ病氣ノ

本日本午  
 四時死仕  
 候去御  
 間申上候  
 通知  
 臣而奉義

[illegible][illegible]

形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴  
形川北製靴

明時町  
一切の活版屋設備に充ちてゐる

柔術道場

三金高等靴店  
電話 芝 六九〇  
七二五  
東京市芝區芝下町

人小田省吾  
代柴崎鐵吉  
稻荷誠平

先富  
三三八〇  
二七九八  
〇三六〇  
四〇七〇  
〇七〇〇

○印刷所の能率　天北師をとし  
京墨印刷所兼孝隆軒大倉屋同所ヨ  
リにては、間隔僅自紙一組四丁立  
てに、一日に五組以上印刷せしむ

○印刷所の能率　天北師をとし  
朝岡松道房に依り、硃石、瀝青、公治

て始得を許特

付サス紐網.....本見物念記  
(丸)箱) (大)費)

(裏面)

明 天  
神 皇  
御 座

記 登  
書 上  
に 願  
ふ 御  
神 託  
像 付  
不 可  
得 せ  
揚 げ  
す 裏  
面  
に 願  
ふ 御  
神  
託 像  
を 掲  
載 せ  
り

此の記念品は坊間に散在する玩弄品のものも多  
き異なり、本形金米を奉納したる通網學校校長  
正五位將監廣光先生が皆族の高職により、庄  
の心血を凝け讃讃としたる様版の原形を奉  
て其高貴にして而、明治神宮の御神寶たる  
き御創製作の天命を奉化したる佐藤廣光先生  
が、英面の明治神宮御と共に爵位沐浴して  
賜せられる登壇す、き撫帝聖祖の美稱恩賜  
り、永く子孫に傳へられんことを

賣 價  
貳圓純正(銀) 壹圓 金壹圓五拾圓  
四拾(合金成金) 壹圓 金壹圓  
拾圓

送料・郵金箱送料・印以下は郵券代用不可

本一尺六寸上リ  
 同皮夏長拾七寸  
 同型製二七四四  
 一四五五五上柳上  
 二四五五五十  
 三四五五五十  
 四四五五五十  
 五四五五五十  
 六四五五五十  
 七四五五五十  
 八四五五五十  
 九四五五五十  
 四五五五十

上地調書記念會  
 十一月五日午後五時半  
 原景金金開帳  
 分會金金

護婦見羽目各一名  
 小兒科小兒科醫院  
 電話四〇二番

大連市公團衛生  
 生命館南支社

賣員招聘  
 月手富  
 百八拾圓位

大連市公團衛生  
 生命館南支社

本日本午前  
 四時死去仕  
 候間此段御  
 通知申上候  
 迫而葬儀ハ  
 來三日午後  
 四時半途中  
 葬列ヲ廢シ  
 府内長沙洞  
 妙心寺ニ於  
 テ執行可仕

[illegible]







